



医療法人普門院診療所機関誌 平成 21 年新緑号



不況の中でのサービス向上と充実に向けて

平成 21 年 4 月

介護老人保健施設看清坊施設長
グループホーム能羅坊管理者



小山靖夫

開花宣言があった途端に気温が下がって、戸惑っていた桜が4月に入って順調に開き始めました。丁度そのころを狙ったように、北朝鮮の“テポドン”が、予定宣言より1日遅れて4月5日(日)の昼前、東方向に日本を狙い撃ちするように発射されました。その日本では誤報騒ぎも交え、例によって無節操な一部ジャーナリズムは、無責任、無思想、無意味の大騒ぎをしましたが、ロケットは日本列島のはるか上空を横切り、実質被害をもたらすことなく、予定より短い飛行で太平洋に落ちたようです。北朝鮮政府は、“宇宙衛星打ち上げ成功”とっていますが、それらしき新飛行物も発信電波も確認されていません。何にしても、花咲き、鳥歌い、若芽萌え出る命の季節にそぐわない無風流な出来事でした。国民を飢えに追い込みながら、天に向かいつばきするような、愚かな行動に向かう独裁者を戴くことになってしまった北朝鮮の人々には同情の念を禁じ得ません。

一方、米国発の世界大不況の嵐はますます猛威を振るい、解雇、失業、新卒者の就職難は深刻さを増しています。その嵐の中で、医療法人普門院診療所では4月1日(木)新規採用者を迎え、看清坊のホールで入社式が行われました。幸いなことに、理学療法士、作業療法士、ケアマネージャー、介護職員の方々からなる合計16名の大増員です。それぞれ、普門院診療所、中善坊、看清坊、能羅坊等に配置されますが、暫しのウォーミングアップを経て、一人一人が個性豊かに能力を発揮され、施設機能の拡充・発展に向けて大きな戦力となって行くことが期待されます。

ところで、初めて経験する高齢化社会に世界に類のないスピードで突入した日本です。高齢者・障害者対策を含む現行の福祉介護制度は未完成であり、先進高齢化諸国の経験に学びながら、手探りの手直しを続けています。今後とも制度の見直しや補強が続けられることは当然ですが、年齢構成別の将来人口動態が、概ね予測出来ることになった現在、しっかりした見通しの元、将来に向けて維持・発展が可能な堅固な制度の基盤を築くことが、今最も必要な時期ではないでしょうか。幸いにして、日本には独自に築き上げてきた世界に誇る国

民皆保険制度があります。この基盤を継承し、健康・医療・介護・福祉を総合する、ゆるぎない保健福祉制度の骨組みを作り上げることが今最も必要とされる重大政治課題です。勿論国民の総生産能力の推移や技術革新によって、必要経費の総額や配分の濃淡が配慮されることになるでしょう。しかし、全体を支える基盤と、枠組みがしっかりしていれば、安心して健康を維持し、生産活動を行い、年をとることが出来るようになるはずで、さしあたっての経費のことしか頭になく、“日本には中位の福祉が似合っている“などという根拠が空っぽの感想のような言辞を、政策のように口走る総理大臣には、是非ともしっかり勉強して戴きたいと思います。

4月6日(月)の昼食はお花見弁当で、穏やかな晴天に恵まれた七分咲きの花を愛でながら、庭で、ホールで、自室のベッドで食事を楽しみました。日本の春のすばらしさを満喫。



「普門」て、なんですか？

と、地球にやってきた宇宙人に質問されたら、どう答えますか？

【答え】

「あらゆる方向に顔を向けている者」で名前を観世音といいます。世の中で苦しむ人の声を聴き、その人と同じ立場に自分をおいて、その人の苦しみを抜く人です。(妙法蓮華経 観世音菩薩普門品より)

入社式

平成21年度医療法人普門院診療所入社式が4月1日看清坊ホールにおいて行われました。今年も強力なスタッフの加入により、さらに充実した医療・介護をめざします。

理事長による辞令交付



新入社員による誓いの言葉



今年入社スタッフ



入社式後の研修



今年度採用職員 看清坊・能羅坊



看清坊介護福祉士
上野莉奈

高校を卒業したばかりで経験がとても浅く、分からないことばかりで戸惑ってしまうことが多くあると思います。なので、分からないことなどは先輩方に聞いていたりして、出来るだけ早く仕事に慣れるように頑張りたいと思います。よろしくおねがいします。



看清坊介護職員
市川淳子

今年の1月から、看清坊通所介護職員として勤務している市川淳子です。20代の頃は、介護職に就くことなど考えたこともありませんでしたが、家族の病気や死を経験し、介護に携わる仕事がしたいと思うようになりました。初めての仕事で不安や戸惑いはありますが、先輩方や利用者の方から学び経験を積んでいきたいです。よろしくおねがいします。



能羅坊介護支援専門員
田口悦子

いつまでも、その人らしい生活を自分の意志で送れる事が基本方針である。地域と連携がとれ、ご利用者の声に学び、能羅坊の、ご利用者が穏やかな時間と安らぎのある空間を持てる様に支援致します。
ご利用者を支援しつつ、自らもケアされる存在であるという人間的な成長と共感を分かち合っていきたいです。



看清坊介護福祉士
押久保紀代美

この度、看清坊に介護職員として勤務することになりました、押久保紀代美と申します。まだまだ利用者様や職員の皆様の顔とお名前が一致いたしません、少しずつ覚えて、皆様のお役に立てればうれしいです。これからよろしくおねがい申し上げます。

普門院診療所リハビリテーション科紹介

平成 21 年 4 月より普門院診療所リハビリテーション科は新たな体制となりました。リハビリテーション専門医 1 名，理学療法士 9 名，作業療法士 1 名の合計 11 名により患者さんの診療、療法を行っています。



理学療法士と作業療法士

1 階外来リハビリ 物理療法機器



またリハビリテーションを行うスペースも拡大し多くの患者さんの受け入れを行えるように致しました。入院と外来の診療体制を整え，1 階を外来リハビリ，2 階を入院リハビリのスペースとして設定しました。1 階の外来リハビリでは診療ベッド数を増やし，小児領域のスペースや新しい物理療法機器を設置致しました。



1 階外来リハビリ 小児スペース



2 階入院リハビリ

対象となる患者さんは小児から高齢者までで、主な対象疾患として脳血管疾患、整形外科疾患、小児領域、神経疾患および内科疾患のリハビリテーションを提供しております。

患者さんにより良いリハビリテーションサービスを提供するため研修、研鑽を重ね、良質なリハビリテーションを目指します。そして、地域に密着したリハビリテーションを行える体制を築いていくよう考えております。

地域の皆様に貢献できるようスタッフ一同努力していきたく思いますので、よろしくお願い致します。



ボランティアの風景

右近義徳氏・川口純子氏によるバリトン独唱会



看清坊において2月2日、4月20日の2回にわたり、右近義徳氏・川口純子氏によるバリトン独唱会が行われました。右近義徳氏は国立音楽大学を卒業され、東京・京都・宇都宮他で独唱会を開催されるなど広くご活躍されています。川口純子氏は武蔵野音楽大学を卒業され、現在は作新学院大学女子短期大学部を務められており、14年間にわたって右近先生のピアノ伴奏をつとめられております。

2回の独唱会は地域の方も含め、約50名の方が参加され、「荒城の月」・「砂山」・「浜辺の歌」など9曲を楽しまれ、心やすらぐひとときを過ごされました。独唱会終了後参加者から素晴らしい歌声を聞いて「寿命が伸びた」・「心が落ち着いた」等さまざま感想を話して頂きました。



行事スナップ

お花見 4 / 6



じゃがいもの種まき 3 / 24



花祭り（灌仏会） 4 / 15



認知症について講話 3 / 5 (益子駅舎講堂にて)



認知症 (dementia) について 田中雅博

(de=奪 mentia=精神) 一度得た知的能力が失われ、社会生活に支障をきたす病気

【症状】 記憶障害、見当識障害、失行、失認、失語、実行機能障害、人格障害、社会的障害

【種類】 アルツハイマー病 レビー小体病 脳血管性認知症 ピック病 他多種あり

【望まれる社会的対応】

早期診断・早期病名告知と病気の説明・事前指示の記録と保管・ケア会議への提示等

お知らせ

もうすぐうっつしい梅雨がやって来ます。特に高温、多湿を好む食中毒の細菌は活動が活発となり、毎年新聞をにぎわしています。

私たちの体に、悪い細菌が侵入するのを防ぐため、食事の前や外出後には「手洗い」「うがい」を徹底しましょう。

悪い細菌を『つけない、増やさない、うつさない』

今後の行事予定

5月15日	いちご狩り
5月	さつまいも苗植え
5月27日	チャレンジデー
6月	のど自慢
7月	じゃがいも収穫祭
8月1日	納涼祭



発行日／ 平成 21 年 5 月 12 日

発行所／ (医) 普門院診療所 介護老人保健施設看清坊

栃木県芳賀郡益子町益子 4 4 9 3 TEL.0285-70-1150

ホームページ <http://fumon.jp/>



介護老人保健施設

看清坊

をクリックして下さい